

女子 サッカー部

よりよい大学生活を送るために



主将 矢野 琴美

私たち女子サッカー部は、1年生4人・2年生7人・3年生5人とマネージャー2人、コーチ2人で活動しています。ほとんど全員初心者なので、先輩・後輩とても仲が良く、お互いに教え合いながら、月・水・木・土と週に四回練習に励んでいます。公式戦は主に春リーグと秋リーグで、私たちは今2部ですが、1部昇格を目指して日々頑張っています。リーグ戦ではチームが一つとなって、一人ひとり上手くなっても、チームプレーで勝負しています。試合としては、他に近畿国立大学大会と奈良県リーグがあります。

夏休みには、3泊4日で筑波大学で行われる「筑波フェスティバル」に参加し、全国の女子サッカー部の皆さんと交流しています。1月のセクター試験休みには、男子サッカー部と一緒に3泊4日のクラブスキーに行きます。男子サッカー部の人と関われる良い機会であり、内容とても楽しいので、毎年ほとんどの部員が参加しています。



リーグ戦前 大学にて

が、しんどい練習をみんな乗り越えた時の感動は、今しか感じる事ができないと思います。大学に入ってまで部活かあ...と迷っている人がいれば、私は入部することをオススメします。奈良教育大学は学校の規模が小さいということもあり、部活動に入ること、1年生から4年生まで多くの人と知り合うことができます。毎日練習があるわけではないので、バイトなどとも両立でき、本当に毎日が充実すると思います。特に大学から新しく何かを始めたいなら、女子サッカー部は笑顔でお待ちしています♪

課 外 活 動

障害者問題 研究サークル すぎのこ

個性を活かす



部長 吉川 真依

「障害って何？」という質問に、あなたなら何と答えますか？私たちは障害者問題研究サークル「すぎのこ」です。すぎのこでは月に一度定例会を開き、障害を持ったメンバーさんの余暇支援をしています。余暇支援といっても、特別難しいことはしていません。学生は毎回、楽しんでメンバーさんと活動しています。調理や作業はもちろん、お出かけをすることもあります。私たちが通して考える「障害って何？」の答えについて、少しお話しします。

障害って何？私の答えは「その人が持っている個性のひとつ」だということです。ありきたりに聞こえますか？しかし、本当にそう思うのです。私は大学生になるまで、「障害」という言葉を聞くだけで身構えていました。障害を持った人とはどんな風に関わればいいのか、どんな風に話せばいいのかは、私は、障害を持った人に接したことがなかったのです。大学に入学した頃の頃、生活の何もかもが新鮮でしたが、すぎのこで感じる新鮮さはズバ抜けて感動できるものでした。障害を持った人と話すことに、身構えたり怖がりしたりしていた自分は、どこにも居なかったのです。メンバーさんたちは、パワ



すぎのこ定例会

フルかつフレンドリーでした。メンバーさんたちと触れ合うことで感じた個性の豊かさは、「障害」という文字で表すのは不適切のように思えました。すぎのこという場所は、障害を持ったメンバーさんたちにとって「自分を自然に受け入れてもらえる場所」だそうなんです。私は、個性は周りに受け入れてもらえるからこそ活きるものだと思います。また、個性を活かせる場所を探していくことが、将来につながるのではないのでしょうか？皆さんもぜひ、自分の個性を活かせる場所を探してください。

キラリ☆学生紹介

全国大会で優勝!! 選手も驚きの結果に

昨年3月に第1回バイトルカップU-23全国フットサル大会ミックスクラスに出場し見事全国制覇を成し遂げ、昨年度学長表彰を獲得したフットサルチーム『鹿の子FC』の選手3人に話を聞いた。



左から...山岡敬弘さん(教育学部4年生)、佐川祐樹さん(教育学部3年生)、加納圭祐さん(教育学部3年生)

鹿の子FCはどういったチーム? 山岡: 大学サッカー部のOBの方が、フットサルを楽しもうと、サッカー部や女子サッカー部に呼びかけ集まったチームです。大学サッカー部だった僕と佐川君がOBの方の誘いを受け、サークルでフットサルをしていた加納君とこの大会に参加しました。いわば、大学サッカー部とフットサルサークルとの混合チームです。最初は楽しむだけのチームで、全国大会出場決定で慌ててユニホームを作ったくらいで、でも、関西大会、全国大会とステージを上げることに、「ここまで来たら勝つぞ!」とチー



まずはおめでとうございます。優勝した感想を。 山岡: 正直、優勝してしまっただけというのが率直な感想です。 加納: ありがとうございます。優勝した感想を。 山岡: フットサルはサッカーを室内で楽しめるようにしたミニサッカーで、競技は五人で行います。その中でもミックスは、男女混合で行うフットサルのことで、コート内には常時女子選手を二人以上入れることが条件です。全国優勝した僕らのチームは、大学からサッカーを始めた女子サッカー部員が出場してくれました。 大会は、奈良予選・関西地区予選と進み、そのうち上位2チームが東京での本選決勝に出場できました。ミックスクラス・オープンクラス(男子のみ)併せて全国で300チーム余りが参加して、優勝を目指していたんです。僕らは関西地区決勝で負けて2位で東京に行ったのですが、最後には全国優勝することができました。

ム全員の目の色が変わりましたね。 加納: 全国大会に出場して、何か学んだことなどありましたか? 加納: 自分は、大会を通じている人々と出会い、スポーツを通じて触れ合うことにとっても感激しました。自分もこんな風に大会を開いて、多くの人にスポーツを楽しんでもらいたいという思いが強くなり、実は、他の大学の学生たちの協力も得て、近くフットサルの大会を開催することになりました。関西のプロフットサルリーグ、Fリーグのチームの協賛も得ることができ、多くの人にまた同じような感動を与えられる大会にすべく、運営準備に忙しい日々を送っています。あの全国大会が僕に与えた影響は、とても大きかったですね。

〈活躍する奈良教育大生〉

〇剣道部



平成21年度 四教育大学交流剣道大会 男子個人戦2位 教育学部 3年生 大鳥 亮太



第63回 奈良市民体育大会春季大会 一般男子個人2位入賞 教育学部 2年生 奥田 章人

〇男子ハンドボール部

関西学生ハンドボール春季リーグ戦 6部 優勝

〇論文等



社団法人建設コンサルタンツ協会 2008年度懸賞論文(学生部門)佳作 教育学部 4年生 吉田 勝哉 <http://www.jcca.or.jp/achievement/article/award.html>